

# 水道事業の 決算状況



炊事、洗濯、入浴など私たちの生活に欠かすことができない水。市は、安全で良質な水道水を安定的に供給するため、市民のみなさんがお支払いする水道料金を主な財源として、水道施設の整備や維持管理などを行っています。今号では、平成13年度水道事業会計の決算状況をお知らせします。

## 平成13年度の決算

～収入と支出の状況～

水道事業会計は、施設の維持管理など日常の営業活動に伴う収支を示す『収益的収支』と、施設の建設や改良など投資に伴う収支を示す『資

本的収支』の2つに分かれています。(表1)

一般的に一事業年度の営業成績を示す「損益(黒字または赤字)」は収益的収支で表されます。

収益的収支

収入合計の9億590万円に対して、

支出合計が8億9千676万円となり、

収支決算は914万円の黒字となりました。

た。

また、この黒字額については、前年度から繰り越された4千831万円の未処理欠損金(平成13年度の単年度赤字分)に充当されます。

この結果、平成14年度に繰り越される未処理欠損金は、3千917万円となり、平成14年度以降に見込まれる黒字(純利益)で相殺する予定です。

資本的収支

収入合計の2億4千287万円に対して、支出合計が5億7千645万円となり、3億3千358万円の財源不足となりました。

また、この不足額については、減価却費などの損益勘定留保資金や建設改良積立金で補てんしました。

一人1日平均237リットルの水を使っています

～給水の状況～

私たちは、水をどれくらい使っているのでしょうか。(表2)

水を使う家庭の数、すなわち給水戸数は毎年増え続けています。平成13年度末で2万1千331戸と、10年前に比べ、2千152戸増加しました。

また、市民全体の水の使用量、つまり年間給水量は、464万3千844立方メートルです。これも、10年前に比べてみると、25万5千228立方メートル増加しました。

このように10年前と比べた結果、給水戸数と年間給水量どちらも増加

していますが、1日1戸当たりの平均給水量は逆に減少しています。これは、経済情勢、家族構成の変化や節水意識の浸透などが要因と推測されます。

なお、昨年の1日の使用水量を1人当たりに換算すると約237リットル、1リットルの牛乳パックにしてなんと237本もの水を使用したこととなります。

## 水道施設を

維持するために

～借入金状況～

安定した水の供給を維持するためには、浄水場や配水管などの水道施設を常に整備していかなければなりません。この整備には、多額の資金が必要となり、手持ちの資金では賄うことができません。そこで、企業債として国などからお金を借り入れ、長い年月をかけて水道料金の中から返済しています。

平成13年度末現在で借入元金の残高は、50億579万円(表3)となっています。これを給水人口1人当たりに換算すると9万3千249円になります。**安定した水の供給に努めます**

～これからの水道事業～

水道は、日常生活を営む上で欠かすことのできない市民共有の大切な財産です。

日ごろからみなさんに安全で良質